

令和4年度 道徳教育地域支援事業における事業内容

学校名[山形市立鈴川小学校]

【研究の要約】

研究のテーマは、「いのちを輝かせ よりよい生き方を拓く 道徳教育」である。サブテーマとして、「他者と響き合い 自己を見つめる 道徳科の授業づくり」を掲げた。本校は、「令和4年度第334回東北地区小学校道徳教育研究大会山形大会」の主幹校である。これは、同大会の大会主題である。校内研究も同じテーマで進めた。

道徳教育の要である道徳科の授業づくりについて、まずは基本である教科書教材の効果的な活用法を探り、下学年では絵本を活用した授業づくりを、上学年では社会の出来事にも目を向けた開発教材を使った授業づくりにも取り組んだ。

1. 事業の内容(具体的実践事例)

(1) 道徳の授業づくりの基礎研修

校内における道徳授業研究会を充実させ、道徳授業での教科書の効果的な使い方、開発教材の活用の仕方を学び、道徳授業の活性化を図った。また、通知表作成の時期に合わせて、道徳科の評価の仕方について研修を行った。

(2) 学級づくりとの関わり

講師に上越教育大学 赤坂真二教授を招き、道徳授業づくりと学級づくりについて御指導をいただいた。道徳授業の手ごたえを学級経営との関わりにおいて職員が実感できるようになることを目標に研修を進めた。

(3) 全校道徳の取り組み

全校道徳を年間指導計画に位置付けて実施した。全校朝会で校長が行う場合や道徳主任が中心となって行う場合がある。また、同一教材、または同一テーマで道徳学習に取り組み、全職員で全児童を育てるという意識を高めた。

2. 研究成果(○)と課題(●)

- 校内での道徳授業研究会を積極的に進めたことで、道徳の手ごたえを実感している職員が増えてきた。

〈 教員の道徳授業意識調査結果から 〉

事業実施前 (令和4年7月)

⇒

事業実施後 (令和5年1月)

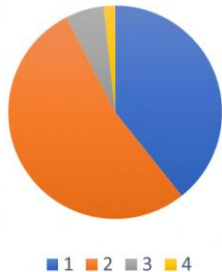
回答結果 割合等	道徳授業の「手ごたえ」を感じるか		道徳授業の「手ごたえ」を感じるか	
	A 感じる	0%	A 感じる	4%
	B やや感じる	44%	B やや感じる	62%
	C あまり感じない	56%	C あまり感じない	30%
	D 感じない	0%	D 感じない	4%

- 教科書教材を基本としながら、絵本や開発教材を使った授業づくりにも取り組んだ。担任の思いが表れる授業実践がなされた。
- 11月に「第34回東北地区道徳教育研究大会山形大会」を本校が主幹校として実施し、4つの授業を公開した。外部の広い施設を会場にして、参集で行った。児童は緊張の様子を見せながらも真剣に授業に取り組んだ。教師にとっても、大変貴重な研修の場となった。
- 道徳授業での学びが、学級づくりへの効果と生活の場での実践にどう結びついていくのか、児童の具体的な姿に注目し、授業改善をさらに進めていきたい。

<参考資料>

【資料1】 児童の「道徳学習ふりかえりアンケート」から

I 道徳の勉強は、楽しいですか



- 1 とても楽しい
- 2 楽しい
- 3 あまり楽しくない
- 4 楽しくない

1 (とても楽しい) と 2 (楽しい) と回答した児童の割合は、92%である。「授業が楽しい」という子供の声は、教師にとって大きな励みになる。教師が熱心に道徳授業に取り組んだ成果がこの結果に結び付いたと考えられる。

II 道徳の勉強は、ためになりますか。



- 1 とてもためになる
- 2 ためになる
- 3 あまりためにならない
- 4 ためにならない

上記 I の結果と比較すると、最上位の 1 (とてもためになる) と答えた児童の割合が過半数を超えている。楽しい授業が第一歩だとすれば、さらに道徳の学習がためになると考える子供が多いことも本事業の大きな成果である。

【資料2】 全校道徳の実施



年3回(学期に1回)、校長が全校道徳を行った。写真は、2回目(9月)に「先生が伝えたいことば」の様子。全職員から「子供たちに伝えたいことば」のアンケートを取り、その結果を教材にして授業を行った。

本校では、「大切な言葉シリーズ」として、「心がほっこりする言葉」や「友達に伝えたい言葉」などを考える道徳学習を計画的に行っている。この授業も、その一環として実施したものである。

【資料3】 第34回 東北地区小学校道徳教育研究大会山形大会での公開授業



令和4年11月11日(金)、本校が主幹校として標記研究大会を開催した。感染対策に万全を期して、密を避けて外部の広い会場(山形ビッグウイング)で、参集で行った。当日は、県内を中心に東北各県から約200名の参加者があった。

子供たちは、たくさんの先生方の前で緊張しながらも、真剣に授業に取り組んでいた。

令和4年度 道徳教育地域支援事業における事業内容

学校名〔天童市立第一中学校〕

【研究の概要】

学校教育目標「英知・活力・気品ー自律と尊重する心〜」及び生徒の実態をふまえ、目指す生徒像として、「自分事として捉え、実際に行動に移せる生徒」を掲げ、生徒の道徳的実践力の育成へ向けた道徳教育の充実を図る。特に、「他を思いやり、尊重しながら行動できる生徒」を育成するため、学校・学年同一歩調で、教育活動全体を通じた道徳指導を行っていく。

1. 事業の内容（具体的実践事例）

- (1) 夏季研修会に国立教育研究所の浅見哲也氏を招聘し、講話及び演習を実施。さらに、山形大学教授の吉田 誠氏を招聘し（2回）、教材研究及び授業研究会において指導助言をいただいた。
- (2) 端末と大型モニターをつなぐケーブルを全学級に配備し、道徳用教材を活用した授業の導入等でインターネット上の動画の視聴や学習支援アプリを活用した意見交流を行った。

2. 研究成果（○）と課題（●）

(1) 上記事業に関して

- 浅見哲也氏より、「道徳科の授業の質的転換に向けて」と題してご講話いただき、道徳的な課題を一人ひとりの生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う「考え、議論する道徳」の授業づくりの具体について学ぶことができた。
- 山形大学の吉田誠教授には、学年部会を中心とした授業づくりの場面を見ていただき、道徳的価値に迫るための効果的な発問構成等を学ぶとともに、実際の授業後の事後研究会においても、生徒の道徳性を養うための指導方法の工夫等についてご指導いただいた。
- 道徳的価値へ迫る効果的な動画資料を提示することにより、生徒の道徳的心情を引き出し、課題を自分事として捉え、教材への自我関与を図ることができた。

(2) 道徳の授業に関するアンケート（生徒）の結果から ※アンケート結果の詳細は次項を参照

- 調査項目 3 道徳の授業では、自分の考えを書いたり、発表したりする場面が多い。
6 道徳の授業では、みんなの意見を聞いて自分の考えが深まっていると思う。

	第1回（令和4年7月）	第2回（令和4年12月）
調査項目3における肯定的な回答	72.4%	79.1%（+6.7）
調査項目6における肯定的な回答	92.1%	94.6%（+2.5）

- 生徒にとって課題が明確であり、互いの考えを交流しながら自己の生き方を深める授業改善がなされてきた結果と捉えている。

(3) 道徳の授業に関するアンケート（教員）の結果から ※アンケート結果の詳細は次項を参照

- 調査項目 2 道徳の授業をするのが楽しい。
7 考え、議論する道徳の授業を実践している、または目指している。
11 日々の生活の中で、生徒の道徳的高まりを評価しようとしている。
12 日々の生活の中で、生徒の道徳的高まりが見られるようになってきたと感じる。

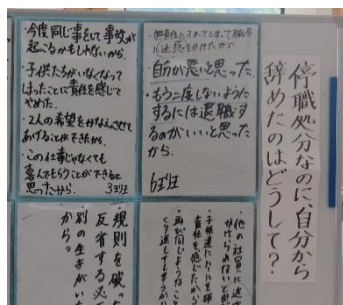
	第1回（令和4年7月）	第2回（令和4年12月）
調査項目2における肯定的な回答	52.6%	66.7%（+14.1）
調査項目7における肯定的な回答	79.0%	91.6%（+12.6）
調査項目11における肯定的な回答	73.7%	100%（+26.4）
調査項目12における肯定的な回答	47.4%	83.3%（+35.9）

- 学年部による授業への取組みを通して、教員が道徳の授業を楽しんでいるようになり、日々の生活の中においても、生徒の道徳的な高まりを意識した生徒理解や教育相談へつなげることができるようになってきている。

＜参考資料＞

【授業の様子】 教材名「二通の手紙」

夏季研修会の演習で本教材を扱った。生徒に考えさせたいことや気づかせたいこと、具体的な発問構成等について検討したことを生かし、2学期には指導の明確な意図をもち、授業実践を行った。



教師の感想

☆これまで、資料の流れに沿って、徐々に「価値」に迫るように発問を考えていました。今回、「価値理解」、「人間理解」、「他者理解」の3つの道徳的価値の理解があることを知り、この3つをもとに発問を考えていく方法があることを知りました。最後の、「道徳教育は、子どもたちの未来への投資」という言葉がすごく印象的でした。

☆道徳の授業づくりをどのようにしていけばよいのか、「二通の手紙」を例に演習形式で教えていただきました。生徒にどのようなことを考えさせ、どのようなことに気づかせたいのか、明確な意図をもって授業をしていくことの大切さを改めて実感しました。また、ICTの活用の実践例も紹介していただき、大変参考になりました。

【その他の成果】 道徳の授業に関する生徒及び教師へのアンケート結果から

生徒用	数字は「よくあてはまる」「あてはまる」の肯定的な回答の割合	7月	12月	変化
1	道徳の授業は楽しい	79.1%	84.8%	+5.7%
2	道徳の授業では、登場人物の立場や気持ちになって、自分なりにどうするかを考えている	91.3%	96.8%	+5.5%
4	道徳の授業では、みんなの意見や考えを理由も含めてしっかり聞いている	95.4%	97.3%	+1.9%
5	道徳の授業では、自分とは違う考え方や意見を聞いて、「そういう考え方もあるのか」という気持ちになることが多い	93.1%	96.0%	+2.9%
7	道徳の授業を通し、物事の見方や考え方が変わったり、広がったりしていると思う	91.2%	93.1%	+1.9%

教員用	数字は「よくあてはまる」「あてはまる」の肯定的な回答の割合	7月	12月	変化
1	道徳の授業は日頃から確保している	68.4%	95.0%	+26.6%
3	他の教師たちと協力的な指導の工夫を行っている	63.1%	66.7%	+3.6%
4	学年内で話し合い、ローテーション道徳やTT道徳、担外道徳を行っている	68.4%	25.0%	-43.4%
5	年間指導計画をもとに道徳の授業を行っている	63.2%	75.0%	+11.8%
7	生徒の考えをもとに課題設定を行っている	52.7%	41.6%	-11.1%
8	日頃から、生徒が考えを出しやすいような雰囲気づくりを心がけている	84.2%	91.7%	+7.5%
9	道徳の授業において、教師の一方的な押しつけや生活経験の話し合いに終始しないように心がけている	73.7%	91.7%	+18.0%
10	道徳的判断力、心情、実践意欲と態度のいずれかを育てることを意識している	84.2%	100.0%	+15.8%

●本校では日常的に担任だけでなく学年体制で道徳の授業を計画し、中心価値や授業展開等を確認したうえで授業を行っていたが、2学期以降新型コロナウイルス感染症の影響で教員や生徒の感染が増え、1学期に実施していたような体制が取れなくなったため、一部の項目で通過率が下がる結果となった。